

Yamakado News Letter



昨年に比べて極端に雪の少なかった冬も終り…

今年の冬はあまり雪が積もりませんでした。楽舎と北部湿原に設置した積雪計の記録は共に最大で20cm程度。全国的に小雪なのかといえそうではなく、東日本では平年より多い地域もありますが、西日本の日本海側では概ね平年以下だったようです。初期から活動している会員によれば、10年前の2008年度も雪が少なかったそうです。気象庁の過去データを調べてみると、確かに2008年度は小雪でした。10年周期の傾向が見られるのかと、

更に10年、20年前を調べてみると、1988年も小雪でしたが、1998年はそうでもありませんでした。（それは以前はデータ参照できず）4回のうち3回が小雪というのは10年周期と言えるかどうか…。

大雪の年には進入路の除雪や楽舎の軒下に溜まった落雪の除去など、何度か重労働が必要です。そんな重労働も今季は不要でした。除雪作業が不要なのはありがたいことですが、一方で獣害の影響が心配されます。雪が少ないことでシカの生存率が高まりますし、早くから活動が活発化するのではないかと考えられます。ブナの森などの上層部で設置しているササ防獣ネットは、冬の

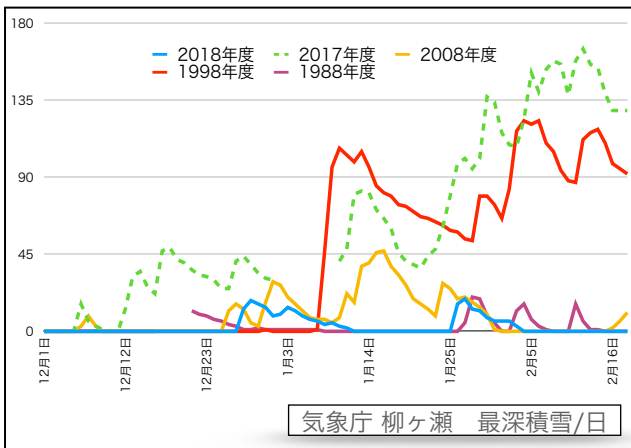


Photo by 伊藤 2/16

間も会員が継続的にパトロールや保守を行っていますが、その他の保護区の再点検やメンテナンスが急がれます。

湿原沿いヒノキの間伐と、間伐材による木道作成中



間伐材の伐倒と枝払い 1/30

保全の成果で湿原沿いのササユリの開花数が増えてきました。しかし、その上層のヒノキも枝が混んできて、ササユリが生育する林床の日当たりが悪くなっています。そこで皮剥ぎ被害木などを主にヒノキを間伐することにしました。



スキッドコーンによる材の引き出し 2/2

作業は1月の若干の積雪がある間に行いました。その理由は作業でササユリの球根が眠る地面を極力荒らさないようにするためです。混み入ったヒノキ林では掛かり木にならないようにロープワークなどを用いて、伐倒作業を進めました。



チェーンソーによる角材の作成 2/18

倒して3mに切った丸太はササユリ観察用の木道に使用する予定です。ササユリが芽吹く前にはネットの再設置を行います。この保護区は観察道の斜面下側にササユリが咲きます。そうすると花の背中しか見えな



ササユリは斜面下に向かって花が咲くので…

いので、花を観察に来た人には評判がよろしくありません。そこで今年は斜面の下側から観察するコースの新設を計画しています。ネットの斜面下

側はオオミズゴケが生育しているので、養生用に間伐材で角材を作り、湿原に並べて木道を作ります。

問題は斜面に点在する3mの丸太を、どう平坦な散策道まで移動させるかです。株元の直径が25cmほどある丸太は2,3人がロープで一杯引いても、少ししか動かせません。

色々調べたところ、スキッドコーンという道具を丸太の先端にキャップを被せるようにして付けて引くと、随分と抵抗が減らせることや、それを森林マッチングセンターで貸し出していることも分かりました。早速借りて作業を行ったところ、雪の上を滑るように動かせます。2人が半日ほどで21本集材できました。集材した丸太はチェーンソーに縦引きのチェーンをつけ、米国製の数千円の治具を使って角材にしています。

予算面や環境面で、高価な機械や重量のある機械は導入できませんので、全て人力に頼ったローテクです。しかし、前例を調べたり工夫すればローテク低予算でも何とかできます。



昨年のササユリ防獣ネット設置作業 18/4/21 Photo by 藤本H



今月の森の様子



雪の中で開花するユキバツツバキ 1/28



水面が凍った南部湿原 2/5



穏やかに水が流れる北部湿原 2/5